

# News Letter

■2010年12月9日発行 ■編集・発行／三重大学高等教育創造開発センター

## 3つの方針の策定と一貫性の構築③： カリキュラム・ポリシーの策定

教育支援の  
リソース

### はじめに

NewsLetterの第15号と第17号では、「3つの方針の策定と一貫性の構築」についてご紹介しました。第18号では、カリキュラム・ポリシー（CP）を策定する具体的な方法をご紹介します。DPと同様に、CPの策定についても多様な方法があります。ここでは、第15号や第17号と同様に、人文学部のFD講演会や国立教育政策研究所が主催するセミナーの説明内容をもとに、ひとつの見解としてこれを紹介します\*。必要に応じて参考にさせていただければ幸いです。

#### 「3つの方針」

- 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー、DP）
- 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー、CP）
- 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー、AP）

詳細については、NewsLetterNo.15参照

### CPの策定

CPは、DPを保証する体系性と整合性が担保されたカリキュラムであることを説明するものです。設定したDPをどの授業科目群で達成するかということを説明したものです。CPの例を次に示します。

#### 教育課程編成・実施方針（CP）

□□学部（もしくは、□□学科、□□コース）は、学部（同）の人材育成の目的を達成するために、□つの授業科目群を配置し、系統的な履修を促します。

- 授業科目群とその内容
- 授業科目群とその内容...

短いようですが、これがCPです。CPについても、根拠資料とともに説明することが重要になります。根拠資料に決まりはありませんが、カリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーなどを添付することが重要になります。これに加えて、授業科目の概要を説明したリストがあってもいいかもしれません。

\* 川島啓二、沖 裕貴、佐藤浩章、山田剛史。「3つのポリシー（DP、CP、AP）をどう構築するのか？：学士課程教育の一貫性」[高等教育開発セミナー]国立教育政策研究所、2010.9.3。

沖 裕貴。「教育の質保証を目指して：3つのポリシーの策定とその実現方策」[三重大学人文学部FD講演会]三重大学人文学部、2010.6.9。

### 認証評価の大学評価基準

三重大学が次に認証評価を受けるのは2013年もしくは2014年です。認証評価では、PDCAサイクルを構築して自己点検・評価していることを、根拠資料をもとに説明することが重要になります。CPに関係する認証評価の大学評価基準（2011年度実施分）は次のとおりです。

#### 基準5 教育内容及び方法（学士課程）

5-1 教育課程が教育の目的に照らして体系的に編成されており、その内容、水準、授与される学位名において適切であること。

典拠：大学評価・学位授与機構。大学評価基準  
[http://www.niad.ac.jp/n\\_hyouka/daigaku/1178444\\_1137.html](http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/daigaku/1178444_1137.html)（2010-12-05参照）

### カリキュラムの構築

カリキュラムの構築には、目的、scope（内容的な区分の領域や範囲）、sequence（順次的な流れの系列や配列）というカリキュラムの3要素が必要になります。DPが目的に該当します。

### カリキュラム・マップ

カリキュラム・マップは、scopeを具現化したものです。DPも各授業科目の到達目標も観点別に記述されていますので（参照：NewsLetter第17号）、その対応表を作成し、どのような授業科目群で観点別のDPを達成しようとしているのかを説明します。この対応表がカリキュラム・マップです。カリキュラム・マップを作成するためには、各授業科目で予め学習の到達目標を観点別に設定しておくことが必要になります。カリキュラム・マップの枠組みを次ページに示します（表1、表2）。

①と②のどちらを採用することもできます。重要なことは、カリキュラム・マップが、学部や学科が提供するカリキュラムによってDPを達成できることを確認するツールとなることです。まずは、現在の状況を把握するためにマップを作成し、その後で、授業科目群とDPの関係、授業科目間の関係について学部や学科の関係者が検討することになります。主な検討のポイントは次のとおりです。

- 対象となる授業科目群によって、DPを達成できるのか。
- 授業科目群が片寄り過ぎていないか。
- 各授業科目の学習の到達目標がDPの達成に本当に貢献しているのか。

表1 カリキュラム・マップの枠組み①

授業科目名	学習の到達目標	ディプロマ・ポリシー			
		1	2	3	4
A 演習	1. .... 2. ....		1.△ 2.△		1.◎ 2.◎
B 基礎	1. .... 2. .... 3. ....			1.○ 2.◎ 3.△	
C 基礎演習	1. .... 2. ....	1.○		2.◎ 3.△	
...					

表2 カリキュラム・マップの枠組み②

授業科目名	ディプロマ・ポリシー			
	1	2	3	4
A 概論	○	○		
B 演習				○
C 基礎演習			○	○
...				

他大学でカリキュラム・マップを作成した時の話を聞きますと、「DPを設定したが、これを達成するための授業科目がないことがわかった」などの問題も明らかになったそうです。また、カリキュラム・マップを作成する作業に関わり、「所属する学部（や学科）がどのような授業科目を提供しているのかを初めて知った」という教員もいるそうです。

完璧なカリキュラム・マップを早急で作成しようとして、無理に辻褃をあわせようとするのではなく、まずは現状を明らかにして、その後に、学部や学科のDPと照らし合わせながら、歳月をかけて、少しずつじっくりと検討していくことが重要になるようです。

大学設置基準の改正により、2008年度から学士課程教育のFDが義務化になりました。

大学は、当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

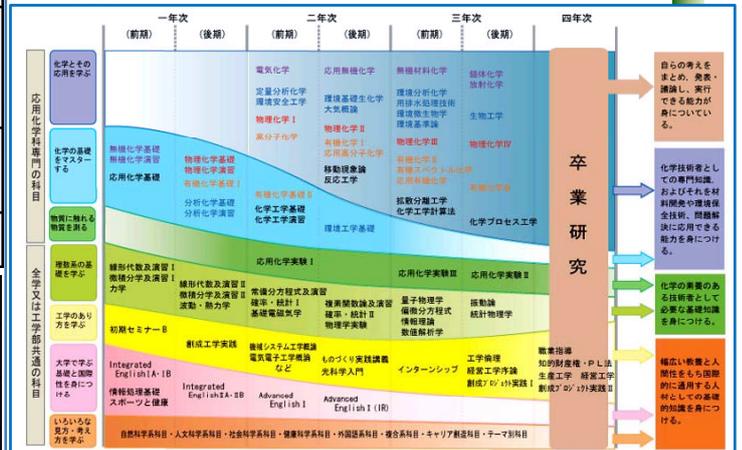
**（大学設置基準 第二十五条の三 教育内容等の改善のための組織的な研修等）**

学部や学科で教育目標やカリキュラムのあり方を考える作業そのものがFD活動になります。

注) 「カリキュラム・マップ」や「カリキュラム・ツリー」は、大学によって名称が異なることもあります。ここで紹介した「カリキュラム・ツリー」を「カリキュラム・マップ」という大学もあります。(例として、宇都宮大学)

## カリキュラム・ツリー

カリキュラム・ツリーは、sequenceを具現化したものです。学生が在学中に授業科目群をどのような順番で学習していくのかを説明するひとつの枠組みです。DPの観点別に、授業科目群の順番を年次に沿って示します。カリキュラム・ツリーの例を次に示します。



宇都宮大学・工学部・応用化学科  
[http://www.chem.utsunomiya-u.ac.jp/home/pdf/curriculummap\\_chem.pdf](http://www.chem.utsunomiya-u.ac.jp/home/pdf/curriculummap_chem.pdf) (参照 2010-12-07)

同じ授業科目を複数名の教員が担当している場合には、授業の概要と学習の到達目標を同じにし、カリキュラム・マップやカリキュラム・ツリー上でひとつの授業科目として示す必要があります。授業の方法については、各担当者の裁量によって決めることができます。非常勤の教員に授業科目を依頼するときには、授業の概要や学習の到達目標を提示し、これに従って授業をデザインすることの必要性を説明することが重要になります。

カリキュラム・マップもカリキュラム・ツリーも、まずは、これらを作成することによって、現状を把握することが重要になります。その検討の中で必要な資料や情報などがありましたら、高等教育創造開発センターまでいつでも気軽にご連絡をいただければ幸いです。

(高等教育創造開発センター  
野村由司彦，長澤多代)

### 参考資料

- ・沖 裕貴. 「観点別教育目標から考えるカリキュラム・ポリシーの構造」『立命館高等教育研究』No.7, 2007.3, p.61-74. [[http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/itl/outline/kiyo/kiyo7/07\\_4\\_oki.pdf](http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/itl/outline/kiyo/kiyo7/07_4_oki.pdf)] (参照 2010-12-06)
- ・沖 裕貴. 「山口大学と立命館大学におけるカリキュラムポリシーの構造化」『大学教育研究年報』No.13, 2009, p.101-120.
- ・佐藤浩章. 「学士課程教育体系化のステップ: 第1回組織体制づくりとめざすべき人材像の策定」『Between』2010春夏. [[http://benesse.jp/berd/center/open/dai/between/2010/04/06step\\_01.html](http://benesse.jp/berd/center/open/dai/between/2010/04/06step_01.html)] (参照 2010-12-06)

APの策定方法等については、次号以降でご紹介します。**高等教育創造開発センターのHP「教育支援のリソース」でも、関連情報を提供しています。**